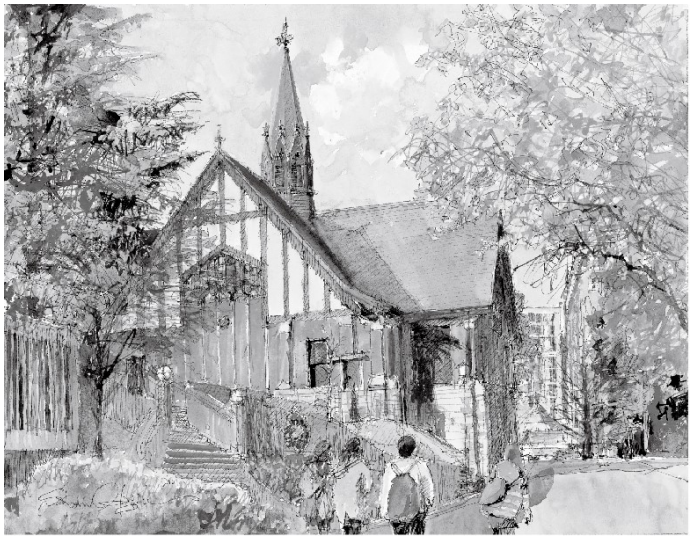
2022年度（春学期）経済学部

ゼミナールガイドブック



COOL HEADS BUT WARM HEARTS

ALFRED MARSHALL

明治学院大学経済学部

渥美　利弘　ゼミナール

演習のテーマ

応用ミクロ経済理論

演習の内容

経済学概論で学んだ内容の復習とその応用研究をします。中学・高校の数学の一部が必要です。問題演習を通じて、一つのことをじっくりと考え、議論することで、経済学的な発想を学んでいただき、経済モデルによる分析の面白さを学生の皆さんと分かち合いたいと思います。

私自身は最近はサービス貿易、自動車貿易そして偽造品の問題などについて、経済学の視点から研究をしています。私の関心分野やこれまでの研究について、詳しくは下記に一覧がありますので参照してください。

https://gyoseki.meijigakuin.ac.jp/mguhp/KgApp?resId=S000333

井川　ジェニファー　ゼミナール

演習のテーマ

Leadership in Literature

演習の内容

This seminar will examine the concept of Leadership through the experiences of characters in works of fiction.

During the first year, we will read and discuss works of fiction to help us consider what the characteristics of a good leader might be, why some leaders succeed and some fail. Students will be expected to read extensively in English to prepare for class. During class, students will be expected to participate actively. Students will gradually assume responsibility for leading class discussion. Students will be encouraged to consider questions that emerge from discussion as possible research topics. As students will also be expected to write summary and response papers, there will also be instruction in writing.

In the second year of the seminar, students will research and write a graduation thesis on a relevant topic of their choice. Classwork will include scaffolded instruction in thesis writing and the presentation of oral research reports. Students will be encouraged to provide and make use of peer feedback.

With a better understanding of the concept of Leadership, it is hoped that students will be better equipped to choose good mentors and become good leaders themselves.

生方　雅人　ゼミナール

演習のテーマ

企業財務・投資理論

演習の内容

ファイナンスはビジネスパーソンにとって世界共通の専門知識の 1 つであり、企業財務の知識や分析手法、ならびに投資理論の応用範囲はライフプランニングといった家計にまで及びます。

企業財務（企業金融、コーポレート・ファイナンス）では企業が企業価値の向上を目指し、ビジネスをおこなう上で必要な資金をどのように調達するか、資金をどの事業に投資するか、株主にどれくらい利益を還元するかといった意思決定について考えます。投資理論（インベストメント）では株式や債券、デリバティブといった金融商品の特徴や投資戦略について考えます。

研究テーマは多岐にわたります。あるイベント(例：M＆A)が株主価値に与える影響、ESG 投資と企業価値の関係、資金調達理論の仮説検証、行動ファイナンスに関する検証、企業統治に関する考察、株式・債券市場の分析、先物やオプション等のデリバティブ市場の分析、為替市場の分析、金融市場のグローバル化に関する分析、リスクの計測とリスクマネジメント、秒単位の取引データを用いた分析など様々な問題意識から研究が進められています。

本演習ではグループワークを中心に、企業財務と投資理論に関連する知識を一通り学びます。業界当てクイズ（財務諸表ベース）や投資のポートフォリオ・コンテスト、経済に関するものさしの調査、論文のサーベイなどをおこないます。また、データや資料を活用して情報を収集し、情報をまとめ上げる力を向上させるために、Excel やデータ分析をおこないます。ゼミ合宿等はおこないます。4 年次には単著として執筆する卒業論文に向けた研究活動をおこないます。なお、欠席はゼミ全体のモチベーションを著しく低下させるので、正当な理由のない欠席に対しては厳正に対処します。

このような流れでゼミ生はビジネス・財務について好奇心をもって臨めるようになる基盤を作り、今後のキャリアを意識し、キャリアで使える考え方やツールを身につけていきます。その他の情報についてはゼミ生による説明会等を参考にして下さい。

大野　弘明　ゼミナール

演習のテーマ

金融経済の理論と実証

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。

・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの２年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG 会などを実施してきましたが、企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。 また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

ファイナンスでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。また、金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

加藤　木綿美　ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営学を研究対象とする。教員の専門分野は経営組織論・経営戦略論であるが、組織論・戦略論に限らず経営学の幅広い分野に興味関心のある学生を歓迎する。ゼミは学生主体で運営しているため、ゼミ生達が目指す将来像、身に着けたい能力などの希望によりゼミでの活動が決定される。

多くの学生は就職活動を行うことになるが、就職活動において必須となる、①魅力となる活動経験、②企業・業界の分析能力、③文章力、④ディスカッション力、⑤口頭でのアピール力と、全ての根底になる論理的思考力を身に着けることを目的とする。

3 年生は経営に関するテーマについての GD（グループディスカッション）、実際の中小企業企業が有する経営課題に対する提案活動、業界分析、経営の理論を活用した企業分析とプレゼンテーションなどを行う。その他、就職活動に力を入れる学生が多い場合は履歴書・ES・面接対策も希望により行う。

4 年生は卒業論文の執筆を中心に行う。経営に関して各自が関心のあるテーマを 1 つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

・日本におけるシェアリング・エコノミーホストの成功事例-Airbnb の事例-
・USED 市場の拡大がハイブランドファッション業界に与える影響
・古民家リノベーションを活用した新規ビジネスモデル
・スポーツバー業態の顧客ニーズと集客戦略
・接客手法が顧客満足や顧客態度形成に与える影響
・オリンピックボランティア参画の意思決定要因

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。

神田　良　ゼミナール

演習のテーマ

日本企業の戦略経営に関する実証的研究

演習の内容

このゼミは、経営学と経営戦略論を理論と実態を通して学ぶものです。理論を学ぶことはもとより、日本企業が実際にどのようにして経営行動や戦略行動を行っているのかを、自分たちで情報を収集、分析して、理論を実践的に活用することを学ぶ場です。基本的な理論を学ぶだけでなく、事実をどのような情報に基づいて把握するのか、またそうして把握した事実をどのようにして分析して、事実を説明するのか、こうした学習の基本も学びます。

2 年では経営学、情報収集・分析、ロジカル・シンキング、プレゼンテーションの基本を学びます。3 年での本格的な研究に向けた基礎作りです。3 年では経営戦略論を学び、戦略的な考え方を修得します。その後、グループ・ベースで実態調査を行って、調査研究の方法論を修得します。その際の研究テーマは、先生の研究テーマである長期存続企業（老舗）のマネジメント、ISO 活用マネジメント、地方創生・地方企業活性化、戦略的全社リスクマネジメントなどの中から、先生が関係する東京商工会議所中央支部、日本科学技術連盟、生産性本部、リスクマネジメント協会などといった外部機関との協力の可能性も考慮して、選びます。先生が今、関心をもって実際に行っている研究テーマと連動させることで、学ぶことの楽しみを共有することも意図しています。

4 年生では、こうして身に着けた研究調査ノウハウを使って、自分の関心のあるテーマに基づいて、卒業論文を仕上げます。これによって、社会に出ても役立つと思われる大学生として基本的な学習能力を構築します。

かなり勉強することになりますので、企業に関する強い関心と学ぶことに対するやる気のあることが求められます。具体的な企業行動に興味をもち、それを究明したいとの意欲のある人を待っています。

小滝　秀明　ゼミナール

演習のテーマ

国際商取引論と実践的ビジネススキル

演習の内容

国際的な商取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用するビジネスのセンスとスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学びます。

年間を通して4名の小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。商材を決め、輸出入対象国や販売・仕入先を定め、マーケティングを考え、販売管理費をマネージします。自らが貿易商社起業を経験することで貿易と経営の両面を学べます。将来、起業はもとより部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然と身に付けられるわけです。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読し発表・討議し、他大学ゼミとの共同研究や企業幹部を招いてのビジネスプラン発表会も行います。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンを目指します。必ずや皆さんは「B ゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・金融・物流・観光・航空などの一流企業に進んで世界を舞台に活躍していることからも、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第6期生よ来たれ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住 17 年、現在 レアメタル商社社長】

手塚　奈々子　ゼミナール

演習のテーマ

イタリア文化

演習の内容

西洋文化は、ギリシア文化とキリスト教で成立している。この B ゼミでは、学生が、１５１７年まで西洋の中心であったイタリア文化を通して西洋文化を深く理解し把握することを目的とする。

イタリアは、古くは紀元前７５３年のローマ建国にさかのぼる。その後のローマ帝国はよく知られているが、ギリシア文化を身に着けたイタリアはヨーロッパの中心となった。また、ローマ帝国の拡大により、ローマの言語であるラテン語が西洋諸言語のもととなっている。そして、代表的なルネサンスもフィレンツェから始まっているように、１５１７年の宗教改革に至るまでイタリアは西洋文化の中心であった。

この B ゼミでは、特にルネサンス期のミケランジェロを中心にして、イタリア文化を学ぶ。

ゼミの進行として、「演習 B1」では、ルネサンスについて確認し、ミケランジェロに関する下記の教科書等を使用する。学生は、資料を毎回あらかじめ読んできて、ゼミで各自意見を述べる。発表箇所について各自プレゼンテーションする。学期末に自分の発表についてレポートを書き、教員に提出し、レポート面接を受ける。

「演習 B2」では、下記の教科書の発表が終了した後、各自関心を持つルネサンス/イタリア文化の中から研究テーマを決め、各自発表する。また、他の学生の発表を聞いて自分の意見を述べる。学期末に自分の発表についてレポートを書き、教員に提出し、レポート面接を受ける。

学習意欲があり、毎回予習したうえでゼミに出席し、自分の意見を述べ他人の意見も聞き話し合えること、プレゼンテーションやレポートの提出期日を守り果たす学生のみ履修すること。

教科書；ジョルジョ・ヴァザーリ『ルネサンス画人伝』(平川祐弘、小谷年司、田中英道訳)、白水社、２００９年。特に、この書の中の「ミケランジェロ」(田中英道・森雅彦訳。２１４～３４８頁)。

他に、関連する書物をゼミで紹介する。

なお、「キリスト教の基礎 A/B」を既に履修済みであること（手塚以外の教員からでも可)。３年次に「西洋文化史１」を履修することが望ましい。

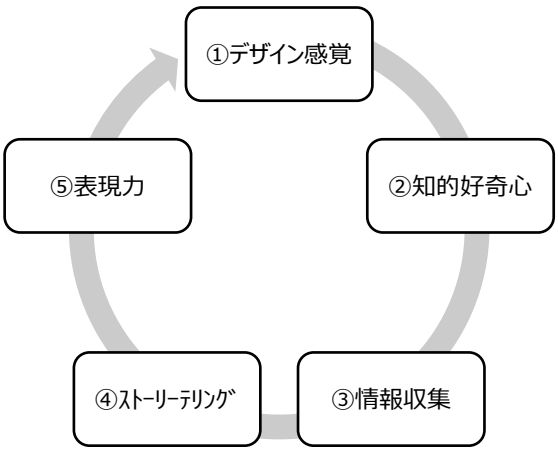
永井　裕久　ゼミナール

演習のテーマ

異文化経営における人間の心理と行動について

演習の内容

問題解決のためのフレームワーク



・このゼミでは、将来、国際ビジネスに関係した職場で働く上で必要となる「対人関係におけるコミュニケーション、リーダーシップ、交渉力」といった人間の心理や行動を扱うテーマを取り上げます。

・右図の５つの要素から構成される「問題解決ためのフレームワーク」の使い方を学び、身に着けます。

① デザイン感覚（どのようなアプローチで課題解決するのか？）
② 知的好奇心（どこに問題発生の原因を探るための手がかりがあるのか？）
③ 情報収集（効率的に信頼できるデータを集める。）
④ ストーリーテリング（集めたデータを分析し、問題解決のシナリオを引き出す。）
⑤ 表現力（さまざまな表現方法を使いて、提案内容を伝える。）

・フレームワークを学ぶために、ゼミ内でリーディングや討論、調べたことをプレゼンテーションする練習をして、スキルアップします。

・「学んだ知識」を「使える知識」にするために、プレゼミ中に、ゼミプロジェクトを通した体験学習を行い、将来の卒業論文作成に活かします。また、留学中にリサーチをして、帰国後の卒業論文に反映することも歓迎します。

・最終的なゴールは、将来、社会人として国際ビジネスで活躍できるための道具を身に着けるとともに、自分自身でバージョンアップできる自己学習（すなわち”How to do”ではなく、”How to learn”を学ぶ）です。

・明治学院大学でゼミを担当するのは、本年が初年度ですので、ゼミ生と相談しながら、ゼミの活動や進め方を決めていきたいと思います。

・井上ひさしの言葉「むずかしいことをやさしく、やさしいことをふかく、ふかいことをおもしろく、おもしろいことをまじめに、まじめなことをゆかいに、そしてゆかいなことはあくまでゆかいに」（井上ひさし「The 座」1989.9、pp.16-17.）という気持ちで取り組めば、きっと、ゆかいに学べると思います。

参考書

佐藤郁哉「ビジネスリサーチ（はじめての経営学）」東洋経済新報社,2021 年,pp.334.
前田鎌利「プレゼン資料のデザイン図鑑」ダイアモンド社,2019 年,pp.320.

西原　博之　ゼミナール

演習のテーマ

国際経営論、異文化マネジメント、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営管理

演習の内容

同演習の研究対象は、「国際経営」、「異文化マネジメント」、「企業の海外進出」「組織の国際化」、「グローバル人 材育成」、「訪日観光関連ビジネス」など、いわゆる企業の国際経営活動の「アウト」と「イン」に関して理解を深めることである。

卒業論文のテーマについては以上の関連であれば受け入れ可能である。ただし、担当教員の研究内容や主たる調査対象地域が、中国、台湾などの華人経済圏における企業のマネジメントであることから、演習では関連の指摘、質疑応答が多くなると想定される。

演習の目的は、国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることである。したがって、演習を通して以下の能力を養う。

1）情報機器を用いたプレゼンテーション方法の学習

2）共同作業を通してレジュメの作成、報告を行うなど、プロジェクト管理能力の育成

3）ケース・スタディや実証研究を通して理論的な考察や分析能力の向上

4）卒業論文の作成により、4 年間、大学で学んできたことの集大成を行う。

演習では、以下の通りに進めていく。

第 1 に、国際経営に関する基本的な文献を輪読する。その際、少人数のグループごとに レジュメを作成して国際経営に関する基礎知識を養う。

第 2 に、国際経営に関する事例などを用いて討論を行う。その際、各グループが事前に 課題を準備する。演習時間は、担当班が、プレゼンテーションを行った後、グループ間の質疑応答という形式で演習を進めていく。なお、 事例に関連して、実証研究の方法論などについても触れていく。

第 3 に、卒業論文の執筆方法についての確認を行う。同時に、卒業論文のテーマの設定、フレームワークの作成、関連文献の収集及びまとめなどにより、設定した研究課題がふさわしいか、卒業論文にまとめられるかについて検証する。

卒業論文作成までの具体的な演習活動は以下の通りである。

1）個々の研究テーマの設定（3 年次の学期末に提出）

2）卒業論文タイトル及び研究計画について紹介（4 年次、春学期）
（報告、計画書の提出がなかった場合、秋学期の履修を許可しないことがある）

3）中間報告（報告がなかった場合、卒論提出を許可しないことがある）

4）調査研究の概要に関するプレゼンテーション（卒論発表会など）

5）担当教員の許可を得た上で卒業論文を提出（年末までに原稿提出）

以上

広瀬　要輔　ゼミナール

演習のテーマ

計量経済学・データ分析

演習の内容

経済・経営の分野では様々なデータを入手することができます。本ゼミでは、これらのデータを分析することで経済・経営を理解していくことを目標とします。

演習では、初めにデータ分析に関する知識と分析ソフトの操作方法を習得していきます。具体的には、計量経済学に関する入門書を参加者で読み進め、分析ソフトを動かしていくことにより分析方法を身につけていきます。その後、実際にデータを分析してもらい発表してもらいます。4 年次では各自で自由に設定したテーマにそって分析を行い、卒業論文の完成を目指します。

藤田　晶子　ゼミナール

演習のテーマ

企業が公表する財務情報・非財務情報とその分析

演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどのように分析に活用していくのかを調査研究する。

具体的には、次の内容を考えている。

① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告 ～情報と株価の関係
② 会計基準の役割と国際比較 ～J-GAAP と IFRS の差異
③ 財務報告と企業分析 ～海外企業との収益性比較
④ M&A の分析 ～のれんの額と M&A の成否
⑤ 研究開発活動とその分析 ～研究開発と将来利益との関係
⑥ ブランドとその分析 ～ブランド力と企業業績の関係
⑦ 環境報告書とその分析　～環境対策と利益の関係
⑧ 統合報告書の役割とその分析 ～非財務情報と企業価値との関係
⑨ その他

松園　保則　ゼミナール

演習のテーマ

Public Speaking

演習の内容

This seminar course focuses on public speaking of all kinds.

In the academic year of 2021, the “pre-seminar” is conducted during the fall semester. In the pre-seminar, students make short presentations several times about any topics that they would like to share with others. Through these presentation activities, students are expected to get used to speak in public and begin exploring how to make their presentations better.

In the third year of 2022, students learn about the basic principles of public speaking and examine case studies of professional speakers making great speeches, in order to explore possible ways to engage as a confident and professional speaker in public. Also, in preparation for writing a thesis in English in their final year of 2023, students write multiple-draft essays that have these supported by logical arguments and incorporate information from texts.

In the fourth year of 2023, students learn in-depth about theoretical aspects of public speaking in terms of text organization, linguistic features, delivery features, and psychological aspects, and understand how to apply these aspects when analyzing the performances of public speakers. Students are then asked to select and examine a couple of public speakers by using these aspects in order to identify their own ways to become a truly professional speaker. The analytical viewpoints and findings from their examinations will be illustrated in their graduation thesis.

In every seminar session during two and half years, students are expected to actively work on group and class discussions in English.

山田　純平　ゼミナール

演習のテーマ

グローバル企業の分析と国際会計

演習の内容

本演習では、決算書を通じてグローバル企業の経営分析を行い、さらに会計基準の国際的な動向について学びます。その過程で、企業会計についての基礎事項について習得することになります。

グローバル企業の経営分析では、海外企業の決算書を分析し、それを基に、どのような経営戦略をとっているかについて検討します。さらには、将来を予測して、企業価値の算定まで行う予定です。まずは、企業分析や企業価値評価について説明した本を読んだ後、各自が海外企業を分析し、その結果を報告してもらいます。

国際会計の分野では、ルールが国際的に収斂する一方で、各国でそのルールがバラバラに適用される傾向にあります。そこで、企業会計のルール全般を学べる教科書を題材として、国際的なルールの動向を学んだうえで、各国でそのルールがどのように適用されているかについて検討することを目標とします。

その他に、例年は他大学との研究報告会で報告をしてもらっています。共同で報告する作業を行うとともに、大人数の前で報告し質疑応答ができることを目的としています。3年秋学期に留学に行く学生については、研究会での報告は免除します。

最後に、これらの勉強の総仕上げとして、卒業論文を執筆することになります。1年間かけて論文を執筆することにより、論理的な思考力が鍛えられるので、卒業論文を執筆することを望みます。